

【優秀賞】

【水と私の暮らし】

設楽町立津具中学校 二年 鈴木 結衣

私たちは毎日どこかで水を使っています。服を洗ったり、のどが渴けば水を飲んだり、川や海で遊んだりします。改めて、衣食住、どの場面でも「水」は私たちの暮らしには欠かせないと気づかされます。そこで私は、「水」のことをもっと知りたいと思い、家族に聞いたりタブレットで調べたりしました。調べていく中で、私は、三つのことに興味を持ちました。

一つ目は、私が住む地域との関わりです。私は愛知県山間部の自然の豊かな町に住んでいます。ここでは、米作りが盛んです。米作りでは、川の水を使います。その川の水がきれいであれば、おいしい米を作ることばできません。私の住む地域の川には魚がいます。これは、川がきれいな証拠です。週末に出かけると、ゴミが捨てられた川を見ることがあります。そのような汚れた川を見ると悲しくなります。おいしい米を私たちが食べ続けるためにも、私たちの住む地域の川のように、魚が住める川を守っていかなければならないと感じました。

二つ目は、今の時代との関わりです。二〇一九年に新型コロナウイルスが流行しました。その感染予防のため、手を洗うことが子どもから大人まで、だれもが行う習慣となり、水の需要が高まりました。毎日手を洗うことが必要不可欠となった今、水は欠かせない存在となりました。もし、その水が汚れていたらどうでしょう。そこから感染してしまう可能性もあります。水が汚ければ、この習慣は生まれなかったと思います。汚い水を目にすれば、手を洗おうという気持ちにもならないからです。今の時代は特に、私たちにとって清潔な水はなくてはならない存在だと、改めて実感しました。

三つ目は、きれいで安全な水が手に入りにくい国も、世界にはあるということです。タイでは水道水を飲むことはできません。日本では水道水を飲み水として利用できますが、日本のような国は、世界に十二か国

しかないそうです。水道水を飲むことができる日本はとても恵まれた国です。そのことを私たちは忘れてはいけないと思います。

改めて「水」について調べてみると、「水」は私たちの暮らしを豊かにしてくれるものだと感じました。一人一人が水の使い方を考え、日本のきれいな水を未来へ、世界へとつなげていけるような努力をしなければなりません。私にも何かできることをしていきたいと思いました。

オーストラリアでは、食器を洗うときは、シンクに洗剤と湯をはり、つけ置きをするだけだそうです。風呂は湯につからず、たった五分間、シャワーを浴びるだけです。オーストラリアの人たちの水の使い方には、とても驚きました。水を大切に使用していると感じました。水を使う量や時間を少なくしており、これは水を大切に使うための、工夫だと思いました。一方で、日本では風呂に湯をためて入る習慣があります。毎日の生活の中で特に、多くの水が使われているところは、風呂です。私は風呂が好きなので、オーストラリアの人たちの水の使い方は信じられないと思いました。しかし、水は無限の資源ではないため、オーストラリアの人たちのような、水を大切に使う工夫を私ももっていることが大切だと感じました。私には、オーストラリアの人のような水の使い方は難しいですが、一度でたくさんさんの量を使う風呂では、使い終わった湯を洗濯の水として使うなど、私にもできることをしていきたいです。

このような小さな一つ一つの積み重ねが、将来のきれいで豊かな水につながります。私たち一人一人が、「水」についての正しい知識をもち、できることを実行していくことが大切です。「水」の存在で、世界中の人たちの幸せにつながればいいと思います。